

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・**最終**)

郷原中学校区 校番6

学校名 呉市立郷原小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 確かな学び	主体的に学ぶ児童の育成	基礎学力の定着(算数科) 表現力の向上	<p>○各単元末テスト(知識・技能)の学級平均75点以上の児童の割合は、83%となった。全学級で75点を上回ることができた。研究授業や指導案作成の際に単元の導入や発問を工夫したことが学力の向上につながったと考える。</p> <p>○キュビナの活用については、チャレンジタイムで継続的に取り組んだりキュビナ強化週間を設けたりすることにより、児童の意識の向上につながった。授業の始めや適用題が早く終わった児童に練習として取り組ませることができた。授業展開によって、キュビナに取り組む時間を確保できないときや、単元によって適切な問題が少ない場合には活用が難しくかった。</p> <p>○2学期末の算数科の振り返りの分析では、質の高い振り返りを書くことができた児童は59.3%であり、各学級、質の高まった振り返りを書くことができた児童は増加したが、目標値には達さなかった。書くことに抵抗感がある児童も多い。</p> <p>○単元ごとに「ふりかえりカード」にメモしておくことで、学期末の振り返りに活用することができた。</p> <p>○教職員の中で、質の高まった振り返りについての認識が不十分な面もあった。</p>	<p>○普段の学習以外にもチャレンジタイムや城山タイムにキュビナを活用し、学力補充や個別指導を継続して行っていく。今後は、学力調査の結果や児童の実態等を分析し、指導内容を精選して計画的に実施していく。</p> <p>○教材研究の際に、キュビナの中に前時の内容の復習や基礎問題等の適切な問題があるか確認をして活用の機会を増やす。</p> <p>○算数チャレンジを実施することにより、生活と結び付けて算数科を身近に感じることができた。今後も算数科と生活をつなげることが出来る取組を実践していきたい。</p> <p>○質の高まった振り返りの内容や「ふりかえるくん」の使い方について教職員が共通認識できるように実践交流を定期的に行い、統一した指導を行っていく。</p>
** 豊かな心	人との関わりから学ぶ児童の育成	いじめや暴力行為等を許さない学校環境づくりを推進する。 ふるさと郷原を愛する児童の育成	<p>○全校児童のほとんどが「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」に肯定的な回答をしていた。現在の取組で、いじめを許さない風土が育まれている。また、落ち着いて行動できる児童が増えてきている。</p> <p>○肯定的回答が84%と、目標を少し下回る結果となった。しかし、1学期よりも増加しており、昨年度からも増加している。</p>	<p>○いじめに関わることはもちろん、それ以外の生徒指導も、全教員の意識を統一して指導できるように交流を行っていく。また、否定的な回答をした児童の言動に、特に注意しておく。</p> <p>○教員が、児童に地域の人々の思いが伝わるように授業を進めてくれたかいもあり、ふるさとを愛する児童が増えてきている。今後も、地域の活動を学校で紹介する等の交流を進めていきたい。</p>
* 健やかな体	自らの健康を考えて安全に行動できる児童の育成	進んで健康・体力づくりに努める児童の育成 自分の命は自分で守ろうとする児童の育成	<p>○50m走は58%、上体おこしは50%、握力は58%の学年で県平均を上回った。目標値の70%に達することはできなかったが、1学期に比べてほとんどの学年で伸びが見られた。体力づくりの宿題や朝の会等でコーディネーション運動を行ったり、全校で持久走の取組を行ったりした成果と思われる。</p> <p>○「呉市防災教育カリキュラム」に基づいた授業の実施率は100%であった。</p>	<p>○呉チャレンジマッチや牛乳パックつぶし等、今年度の取組を継続して行う。また、体育の授業の始まりに鬼遊びや遊具を使ったサーキット運動をする等を全校で取り組んでいく。また、筋力系トレーニングを取り入れた体力づくりの宿題を充実させるとともに、体幹を意識した動きを様々な場面で取り入れ、体力の向上を図りたい。</p> <p>○今後も取組を継続し、教育活動全体を通して、防災教育を実施していく。</p>
業務改善	教職員が意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保 長時間勤務の削減	<p>○教職員アンケートにおいて「確保できている」と肯定的に回答した教職員の割合は92%であり、指標(80%以上)を達成することができた。令和7年度後期も、SSS(スクール・サポート・スタッフ)や学校教育指導補助員等による業務支援は大きな支えとなっている。</p> <p>○時間外勤務45時間を超える教職員の割合は13%であり、指標(30%以下)を達成することはできた。</p>	<p>○年度末は多忙を極めるが、「何でも聞ける」「相談できる」雰囲気は教職員全員でつくり、安心して働ける環境を整え、維持していく。</p> <p>○教職員のボトムアップによる業務改善を継続して進める。</p> <p>○教職員のタイムマネジメントの向上を図りつつ、会議や日課の時間短縮や時数削減等を活用し、放課後の時間確保に今後も努める。</p>